平成 24（2012）年 8 月 10 日　富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

今市遺跡発掘調査現地説明会資料

１．調査原因　富山市立八幡小学校体育館改築工事に伴う発掘調査
２．調査面積　６００㎡
３．調 査 地　富山市八幡地内（八幡小学校敷地内）
４．調査期間　平成２４年７月５日～平成２４年８月下旬（予定）
５．事業主体　富山市教育委員会 学校施設課
６．調査主体　富山市教育委員会 埋蔵文化財センター
７．調査機関　北陸航測株式会社

８．調査の経緯と経過について

平成 24 年 5 月に八幡小学校体育館改築工事予定地が埋蔵文化財包蔵地「今市遺跡」に該当することが判明し、同月、旧体育館解体工事後に試掘調査を実施したところ、新体育館建設予定地 600 ㎡に遺跡の所在を確認しました。

7 月 5 日からこの 600 ㎡を対象に発掘調査に着手しました。7 月 19 日には、同校の 6 年生を対象に体験発掘を実施しました。

９．今市遺跡の立地と周辺の遺跡

遺跡は射水平野の東端部、神通川下流の旧流路左岸の河岸段丘上（標高 5~6m）に立地し、遺跡範囲は今市・八幡・布目・八町・寺島集落の約 300ha に及びます。

周辺は、呉羽丘陵を中心に、旧石器~近世までの遺跡が確認され、県内有数の遺跡の密集地です。

本遺跡では、平成 20 年度に八幡地内の下水道工事に伴い、絵画が線刻された弥生土器（約 1,800 年前）が出土し、「謎の絵画土器」として注目されました。平成 22 年度には、寺島地内の住宅建設に伴う発掘調査で、平安時代の竪穴住居が 1 棟（5.6×5.4m）確認され、また、鎌倉時代の館跡（寺島館跡）を廻る堀跡も確認されました。

本遺跡の立地する富山市北西部には古代射水郡寒江郷があったと推測されています。寒江郷は天平宝字 4（752）年 10 月 18 日の越中国牒（正倉院文書・古代の公文書）に「射水郡寒江郷戸主三宅黒人戸牒」とあり、8 世紀中頃には存在していました。

周辺では、昨年百塚住吉Ｄ遺跡で、奈良時代の馬小屋とみられる遺構や掘立柱建物跡、海岸部に近い打出遺跡では、平成 16 年度の調査で平安時代の官道とみられる直線道路（幅 6 m）が確認されました。遺跡周辺は奈良～平安時代の交通の要衝であったと言えます。

１０．発掘調査の成果

①平安時代前期（9 世紀後半～末、約 1,100 年前）

竪穴住居が 3 棟、掘立柱建物 2 棟、南北方向の溝などがみつかりました。**竪穴住居**の一辺には、かまどを設置していました。

竪穴住居 1 は 3.5m×2.7m、竪穴住居 2 は 3.4m以上×1.4m以上、竪穴住居 3 は 3.1m×2.6m以上で、寺島地内で見つかっている同時期の竪穴住居（5.6m×5.4m）に比べやや小振りであることがわかります。竪穴住居 2 のかまど内には土師器の甕を裏返しにして支脚にしているものもみられました。

掘立柱建物 1 は、2 間×2 間（南北約 4.3m×東西 5.0m）の側柱建物（外側筋に柱を並べる建物⇔総柱建物）で、掘立柱建物 2 は、2 間×2 間（南北 4.1m×東西 5.1m）の側柱建物です。

竪穴住居と掘立柱建物の方向から、竪穴住居 1・掘立柱建物 1 及び竪穴住居 2・掘立柱建物 2 は、それぞれ同時期に存在していたと考えられます。

竪穴住居内や掘立柱建物の柱穴から出土した須恵器や土師器などの土器の年代から、建物が存在したのは、平安時代前期（9 世紀後半～末）と考えられます。

南北方向の溝について、溝 1 は幅 0.2～0.4m、溝 2 は幅 0.4～0.5m で、いずれも延長 35m が見つかりました。用水のように水が頻繁に流れていた痕跡は確認できませんでしたので、集落を区画するための溝あるいは道路の側溝と推定されます。

出土遺物には、須恵器と土師器があります。土師器の鍋や甕には表面に煤が付いたものもあり、煮炊きや食事用などとして実際に使用されていた道具とみられます。

②江戸時代中期（18 世紀、約 300 年前）

東西方向に延びる溝が発掘されました。溝や周辺からは越中瀬戸焼や唐津、伊万里などの陶磁器が出土しました。陶磁器から江戸時代中期以降に営まれた集落に伴う溝と推測されます。

江戸時代前期には付近を通る北陸街道（往還道、草島道とも呼ばれる）が整備されました。高岡城から魚津城へいたる最短道路で、加賀藩の参勤交代の道としても利用されていました。今回発掘された遺構は、その沿道に形成された集落の屋敷地を区画する溝と考えられます。

北陸街道は、小学校の北側を通る説（富山県教育委員会 1980『富山県歴史の道調査報告書』）と東側を通る説（富山市日本海文化研究所 1998『草島道調査報告書』）があります。今回の調査で見つかった江戸時代中期の溝は、小学校北側を通る道路と方向が揃っています。

③昭和時代（20 世紀、70 年前）

表土掘削時に古い建物の基礎部分が地下 0.5m のところから見つかりました。A 区では幅 0.47m・延長 15.7m分・B 地区で幅 0.4m・延長 20.0m分あります。基礎はコンクリート製で、その下に栗石と呼ばれる拳大の川原石が敷かれていました。

その位置や古い写真などからＢ区の基礎は昭和 17（1942）年～19 年に建てられた国民学校（旧小学校）に伴うもので、A 地区の基礎は昭和 24（1949）年に小学校校舎北側に増築された中学校専用の校舎に伴うものと推測されます。「国民・・」と記された陶磁器も出土しました。

④まとめ

旧神通川左岸の河岸段丘上には、奈良時代から射水郡寒江郷に関連する村々が形成されました。それらの集落は現在の国道 8 号線から南側の丘陵やその縁辺に位置しています。今回発掘された集落は海岸部と丘陵部の中間に位置し、平安時代前期に平野部へ開発が進んでいったことを物語ります。射水平野東部の古代集落の変遷を知る上で貴重な成果といえます。

このほか江戸時代、昭和時代と計 3 時期の遺構や遺物が確認されました。八幡地区は江戸時代以降、北陸街道が通り、人や物資が往来する交通の要衝でした。今後、古絵図や文献史料などの調査を進め、街道の位置やその変遷、集落の様相を解明したいと思います。